

「特別の教科 道徳」公開研究会における研究協議会のまとめ

下記については、本研究会における研究協議会（テーマ：評価記述をよりよくするための授業の工夫）で話し合われた内容を、提出シートを基に端的にまとめております。話し合いの詳細等に関しては、把握することが困難であったため、不明な点がございましたら、本校道徳教育推進教師 藤永啓吾までご連絡ください。心よりお待ち申し上げます。

① 授業でどのような展開が考えられますか？

- 学習形態
 - 深めるための流れとして、個人で考え、班で考え、全体で考え、個人に戻す。
 - 自分の事として捉える場面を設ける。
- 1時間の授業評価の実施
 - ワークシートに励ましにつながるコメントを書き、評価記述として返す。
- 振り返りの道徳
 - 学期ごとに学んできたワークシートや道徳ノートなどを見ながら振り返る時間設ける。
- 研修会の実施
 - 道徳科の目標を基に、授業づくり研修会を年間を通して適宜実施する。
- 教具の活用
 - 表情図や心グラフなどの教具開発をチームで行い、蓄積する。
- ワークシートの工夫
 - 振り返りの視点を入れる。（自己評価）
 - 振り返りの視点に①はじめと比べて自分は変わったか②変わったとしたらなぜ変わったか、の欄を設け、価値理解や他者理解、人間理解等の変容を見取れるようにする。

② 学校として、どのような取組をしていますか？ または、どのような取組が考えられますか？

- ワークシートの蓄積
 - 電子媒体で蓄積する。
 - ファイルを作成したり、ワークシートの隅に内容項目番号を記録していく箇所を設ける。
- 子どもの学びの状況の見取り
 - 振り返りや発言を記録する。
- 互見授業の実施
 - 子どもを見取る視点を増やすことに合わせて、授業力向上を図る。
- 評価の文字数の範囲や書き方の統一
 - 説明責任を果たす。
- ワークシートの統一
 - 書式や質問内容を合わせることで、協議しやすい環境を整える。
- 発問の数を2つに統一
 - 週1に学年部で集まり、発問を吟味する。
- 道徳ノートの活用
 - 学びの状況を残す。
- 評価と授業の一体化
 - 評価の視点を踏まえて授業を組み立てる。
- 教員の持ちネタづくり（得意な授業をつくる）
 - ローテーション授業（一人の教師が全学級に同じ内容で授業を行いに行く）を通して、自分の持ちネタをつくる。
- 量的確保
 - 35時間を確実に行えるように、推進教師に限らず、管理職が実施状況の確認を行う。

